
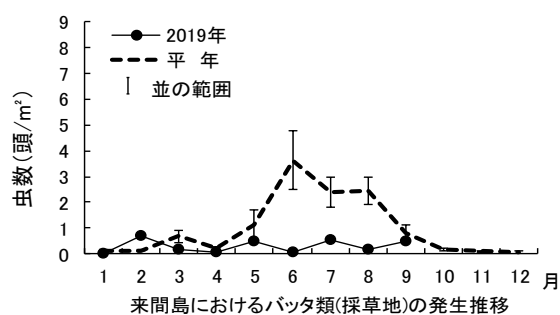
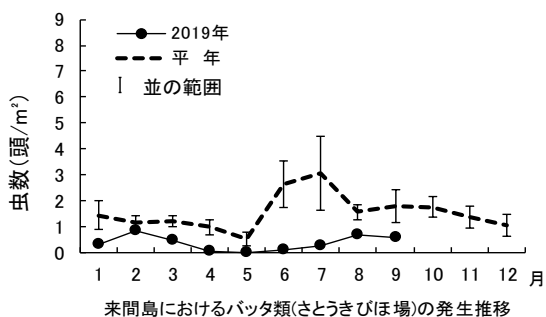


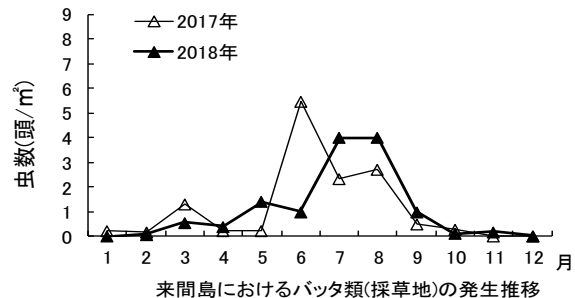
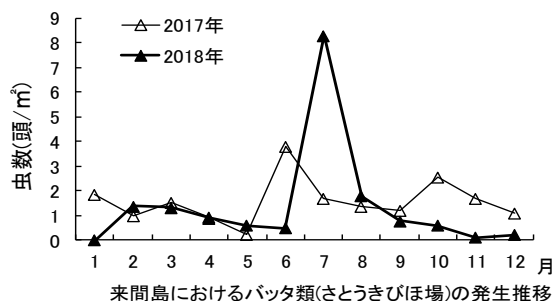
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生種：タイワンツチイナゴ

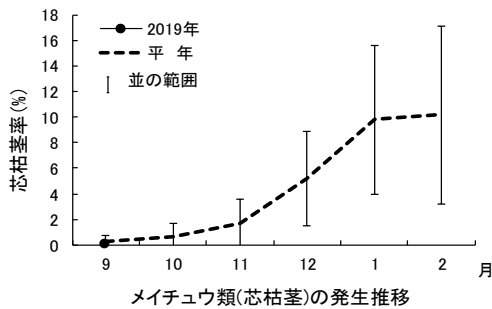
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

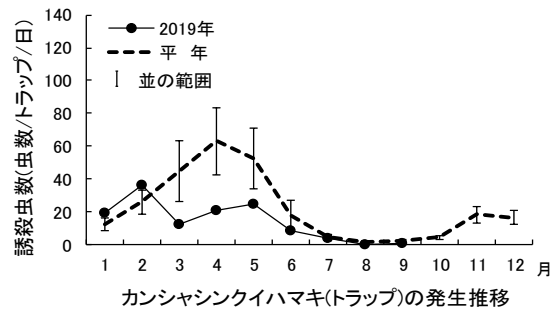
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗) トラップ誘殺虫数の平年の発生量	

調査結果

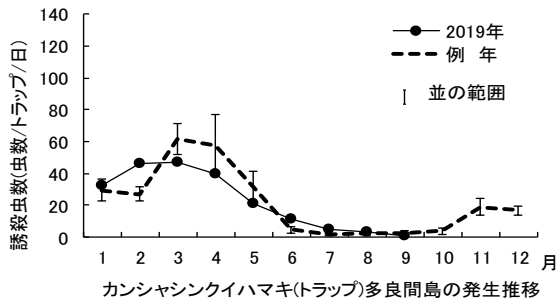
今年と平年の推移



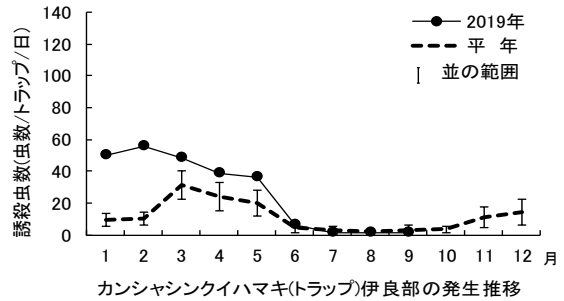
宮古島



多良間島




伊良部島



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：15% (調査した20ほ場中、3ほ場 平年値：29.3%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (1頭) のうち、1頭 (100%) がカンシャシクイハマキであった。

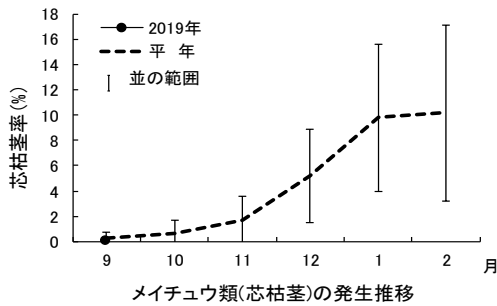
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

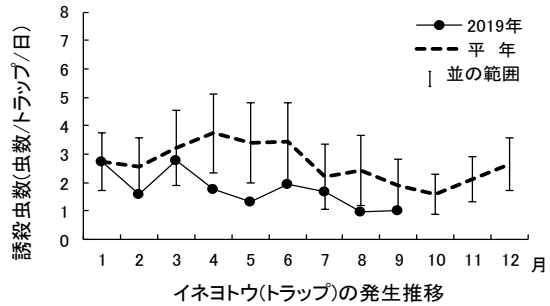
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

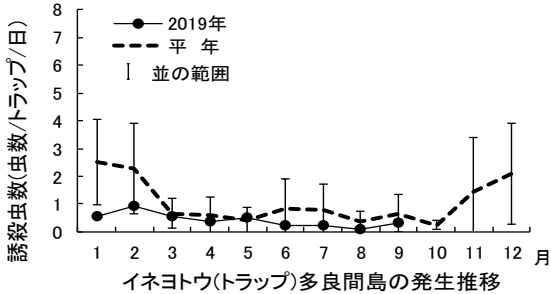
今年と平年の推移



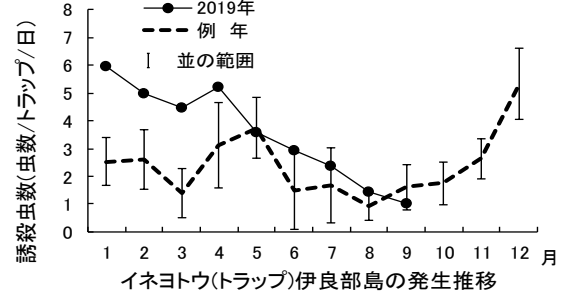
宮古島



多良間島



伊良部島



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：15%（調査した20ほ場中、3ほ場 平年値：29.3%）
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類（1頭）のうち、0頭（0%）がイネヨトウであった。

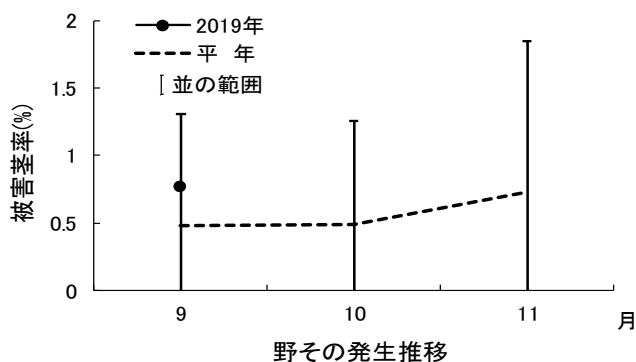
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

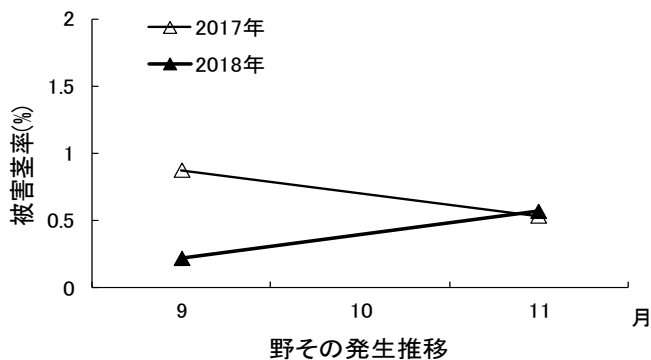
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	野そ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移




- ・被害発生ほ場率：25%（調査した12ほ場中、3ほ場 平年値：25.0%）
- ・一部地域で多発していた。

防除のポイント

- ・管理されていない耕地などで繁殖するため、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・野積みされた剥葉残さなどに巣を作るため、野積みを行わない。
- ・被害は台風で倒伏した収穫前のほ場で多い。
- ・被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

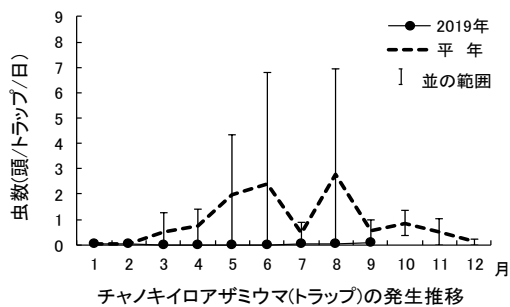
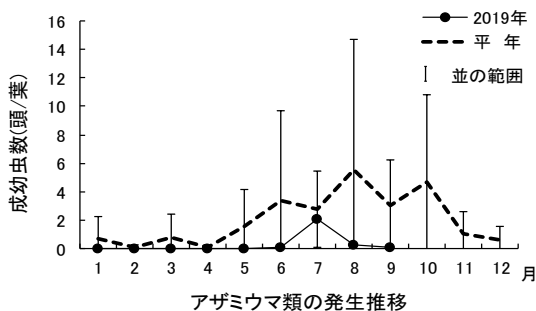


野そによる茎の食害

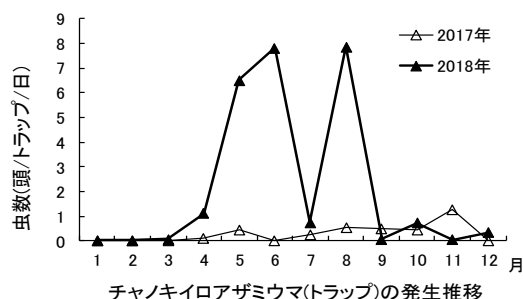
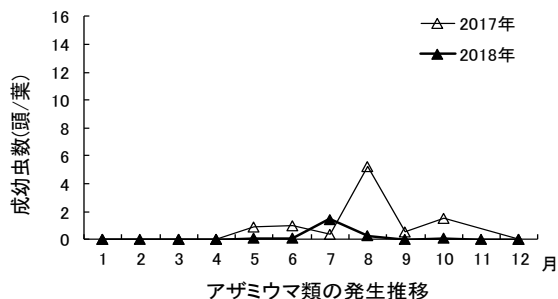
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	新梢の発生量が増加するため 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・見取り調査による発生施設率：60.0% (平年値：73.9%)

防除のポイント

- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。多発した施設では、収穫後に薬剤による防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

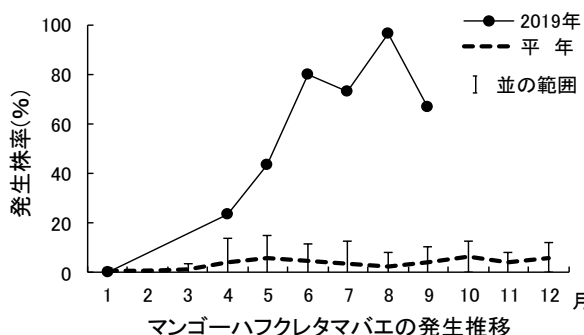


ナガエコミカンソウ

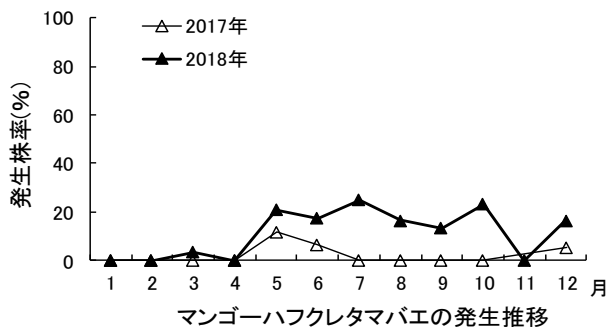
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	多	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	新梢の発生量が増加するため 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・被害新梢率：40.0%
- ・発生施設率：100% (平年値：22.9%)

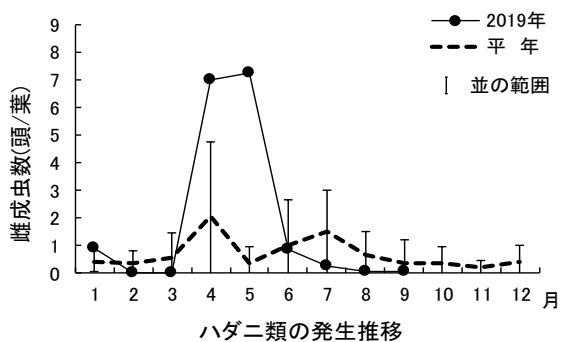
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

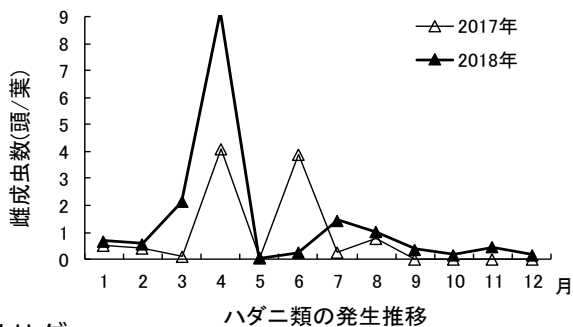
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：20.0% (平年値：28.0%)

防除のポイント

- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。